

お便りください

このコーナーは、皆さんの意見や地域的话题をお届けしています  
広報広聴課 ☎51-0123 内線2822へ御連絡ください

田子の浦マラソンを運営する「富士走ろう会」



「富士走ろう会」は、走ることが好きな中高齢者のグループが集まって、昭和四十九年に発足。ゆつくり走って健康管理をすることを目的とした全国的組織「日本タートル協会」の静岡県支部にもなっています。現在、「元吉原走ろう会」「富士ジョギング」「富士ランナーズ」が加盟し、四十〜八十歳の男女約五十人が活動しています。主な活動は、毎年四月に行われる田子の浦マラソン大会の運営と、その会場となる富士マリンプール周辺の海岸清掃、各種マラソン・駅伝大会への参加です。

メンバーの皆さんは次のように話してくれました。

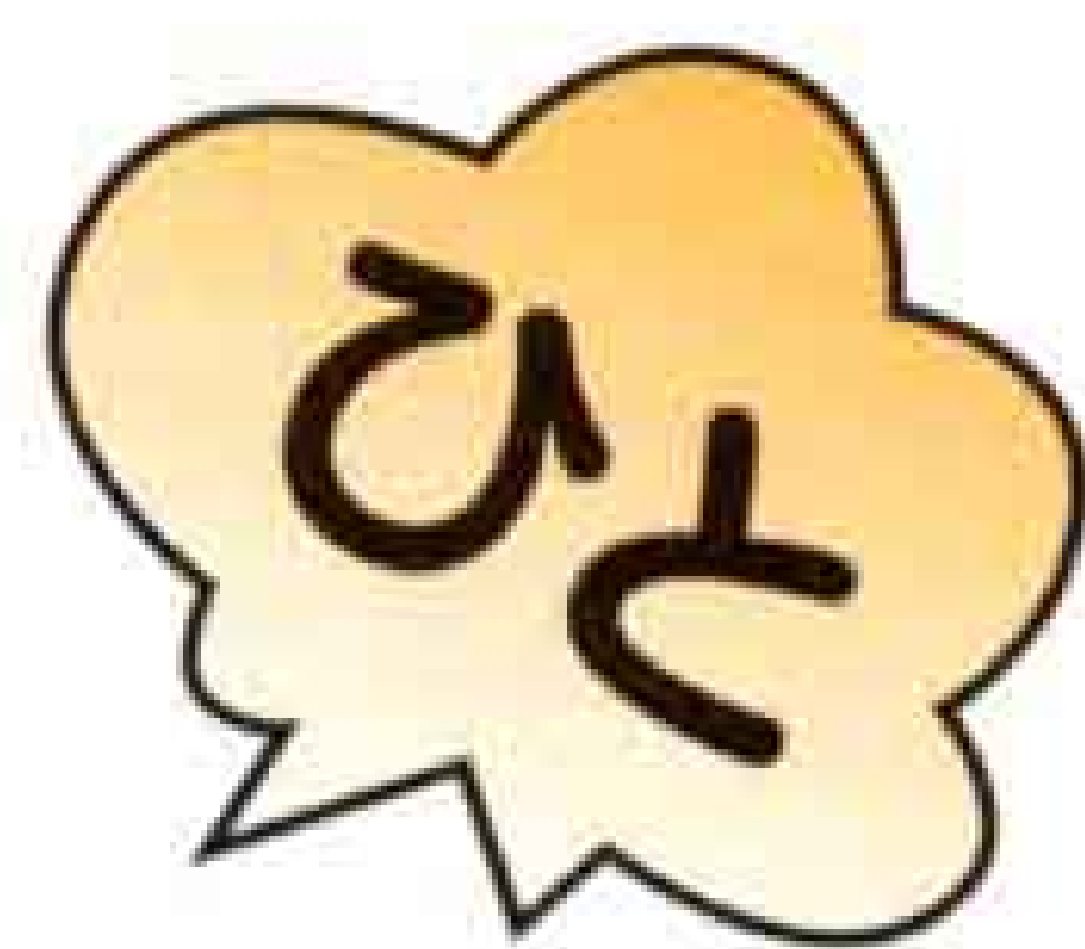
「健康が気になり出す年齢になつてから走り始めた人ばかりですが、みんな走るのが大好きでも仲間がいるから走れるんです。また、完走を目標にホルマラソンなど国内外の大会へも参加していますが、観光と親



▲富士走ろう会の皆さん

※問い合わせ 富士走ろう会 ☎33-0014

睦も兼ねています。特に走った後の一杯が楽しみです（笑）。今後の目標は、いつまでも健康で仲よく走り続けていきたいということと、田子の浦マラソン大会の成功ですね。この大会は、健康マラソンで順位や記録を争うものではありませんから、多くの人に富士山と海を眺めながら走っていただきたいですね。また、会員も募集していますので、ぜひ一緒に走りましょう」



東京・大阪国際女子マラソンに8回ずつ出場の経験を持つ

渡辺 博子さん

(富士岡)



**渡** 辺さんは、東京と大阪の国際女子マラソンに8回ずつ出場を果たしているという静岡県を代表する長距離ランナーです。その渡辺さんが、陸上を本格的に始めたのは、高校生になってから。そして、全国高校総体八百メートルの部入賞の実績を買われて実業団へ。しかし、走ることが仕事で、勝つためのレースをしなければならなくなると、「だんだん走ることがつらくなり、もう二度と走りたくないと思った」と言います。そして、会社をやめ、結婚、出産。ところが、七年間のブランクの後、「おむつを畳みながらテレビでオリンピックを見ていたら、マラソンのアンデルセン選手がふらふらになりながらもゴールし

たんです。その姿にとっても感動して、もう一度走りたくになりましたね。そうしたら、次の日にはもう走っていましたよ（笑）。こうして、現在も数多くの大会に出場し、週六日、一日十〜十五キロメートルの練習を欠かさない渡辺さんは、富士陸上教室で小学生の指導にも当たっています。渡辺さんは、「今は楽しみながら走っています。走っているときに一番はつらつしているって言われますね。走っていてよかったことは、大会などいろいろな人と出会って友達になれたことです。私より年輩の方が頑張っているのを見て、とても励みになります。これから、トラック競技にも力を入れていきたいし、子供たちの走りも応援していきたい。そして、何よりも長く元気に楽しく走れたらいいですね」と話してくれました。